

日本心療内科学会 災害支援プロジェクト 活動報告 5

【岩手県医師会高田診療所(陸前高田市)】(2012年3月～2012年4月までの出勤者)

岩手県内会員 (敬称略)	出勤日	県外会員 (敬称略)	所属県	出勤日
鈴木 順	3月3日 17日	高橋 進	京都府	2月18・19日
	4月21日			
千葉 太郎	3月4日	石川 浩二	愛知県	3月10・11日
	4月22日			
星野 健	4月7日	大中 俊宏	愛媛県	3月24・25日
	3月18日			
加藤 明子	3月18日	原 信一郎	沖縄県	3月31日・4月1日
斉藤 恵子	4月8日			
		原 雅子	沖縄県	3月31日・4月1日
		岡 孝和	福岡県	4月14・15日
		石川 俊男	千葉県	4月28日

2011年10月(スタート)から2012年4月末までの心療内科受診者合計 263人

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
受診者数(再診含む)	16	33	31	38	43	60	42

【岩手県医師会高田診療所 派遣会員より(出勤日:平成24年3月10日・11日)】

— 奇跡の一本松に思いを込めて復興を願う —

今回の支援活動に参加し、大変貴重な経験ができ、多くの先生方に現地の実態を共有頂きたいと思い、感想を述べます。

そもそも私は震災支援経験も皆無で、本活動に対して不安もいっぱいでしたが、何か力になりたい、という思いで震災発生から半年が経過した頃に始まった募集にすぐに手を挙げて参加いたしました。

3/10昼過ぎに診療所に到着し、今までの先生方のご尽力で、診療室の環境が予想以上に整っていたことに驚きました。ただ何せ不慣れで、処方箋の記載、PCへの記録、印刷、次の受診予約など、予想外に手間取り、2日間で初診3名と再診7名でもほとんど時間いっぱいでした。慣ればもう少し対応可能かと思いますが、2年の期間限定でもあり、ある程度落ち着いた人は病診連携のようにかかりつけ医へお願いしていく必要があると感じました。

2日目朝には、タクシー運転手の計らいで、現地の状況も見学させて頂きました。実際に被災現場を見て、診療がより実のあるものになりました。市街地の多くの建物が津波で流されて何もなくなった光景はもちろんです。2、3階以下の部分が柱のみ残った多くの奇妙な建物を見て、改めて津波の恐ろしさを感じました。瓦礫は処理されつつあるものの山積みされ、仮設店舗も次々と建設されているものの、まだまだ復興には時間がかかると知りしました。

今回、ちょうど震災後1年にあたる3/11も担当し、診察中に患者様、看護師さんとともに14:46のサイ

レンを合図に黙祷しました。皆さん、特別な感情を抱いており、「よくなっている」と発言したり、震災による影響は少ないと感じていた人もいましたが、涙ぐむ場面も多く、必死に頑張っている姿がひしひしと伝わり胸を打たれました。既にずい分復興したと思いがちですが、実態は、1年経ってもまだ仮設住宅で不自由な生活を続けている人、自分だけ楽しんではいけないと自責に苛まれている人、当時の光景が何度も浮かんで恐怖におびえ続けている人もまだ多く、本支援活動は非常に有用なものと感じました。今後お役に立つ機会があればぜひ協力させて頂きたいと思えます。

最後に、先日、ある研究会の世話人会で、奇跡の一本松が話題になりました。それは、日本生産性本部が毎年公表している、今年度の新入社員のネーミングでした。「前例のない厳しい就職戦線を潜って残った頑張り」を称え、これからの人生においても「想定外」の事態に直面することもあるが、その困難を乗り越えていくことを大いに期待する」という趣旨で、「奇跡の一本松型」と命名されたとのことでした。一本松を身近に見て診療を行い、より早い復興を願った経験からその言葉に共感を覚えました。

以上、とりとめのない文章になってしまいましたが、本当に貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。関係者の皆様方に感謝申し上げます。

三菱重工 大江西健康管理科 石川 浩二